

「丹下健三と隈研吾」展

(仏題「KENZÔ TANGE – KENGO KUMA, Architectes des Jeux de Tokyo」)

オリンピックの開催を控えたパリで実施

「代々木競技場外観」 撮影：石元泰博
©高知県、石元泰博フォトセンター「国立競技場外観」 撮影：瀧本幹也
国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会所蔵

国際交流基金（JF）は、2024年5月2日（木）から6月29日（土）にかけて、国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会と共催で、フランス・JF パリ日本文化会館において「KENZÔ TANGE – KENGO KUMA Architectes des Jeux de Tokyo」（邦訳「丹下健三と隈研吾 東京大会の建築家たち」）を開催します。

1964年と2021年、東京ではオリンピックが開催され、多くの競技施設が建設されました。本展覧会は、2024年のオリンピックの開催を直前に控えたパリで、日本を代表する建築家として東京オリンピックを象徴する競技場を設計した丹下健三と隈研吾の足跡をたどります。フランスのみならず、パリを訪れる世界中の人々が、オリンピックが遺すレガシー、ひいては建築が未来に遺すメッセージについて考える契機となることを期待します。

丹下健三が設計し、二度のオリンピックで競技会場として活用され、オリンピックのレガシーを代表する建築となった国立代々木競技場。2021年のオリンピック会場（陸上競技や開会式・閉会式）として新たなレガシーとなるであろう隈研吾設計の新国立競技場。本展覧会は、この2つの競技場の大型模型や写真を中心に据えながら、丹下・隈両氏のフランスにおける作品の展示、さらには二人が影響を受けた桂離宮を通してそれぞれの美意識に迫るなど、さまざまな角度からその魅力を紹介します。

記

会期：2024年5月2日（木）～6月29日（土）

※4月30日（火） 内覧会、オープニング記念講演会

会場：JF パリ日本文化会館（101 bis Quai Jacques Chirac, 75015 Paris, フランス）

キュレーター：豊川 斎赫（千葉大学准教授）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：小堤（おづつみ）、篠原）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

主催：独立行政法人 国際交流基金（JF）、JF パリ日本文化会館
共催：一般社団法人 国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会
協賛：株式会社大林組、清水建設株式会社、大成建設株式会社、三井不動産株式会社

株式会社イトーキ、LVMH ウォッチ・ジュエリージャパン株式会社 ショーメ、
LVMH モエヘネシー・ルイヴィトン・ジャパン株式会社、鹿島建設株式会社、
クリスチャン ディオール合同会社、一般財団法人日本建築センター、小松マテーレ株式会社、
株式会社佐藤秀、住友林業株式会社、大光電機株式会社、大日本印刷株式会社、
太陽工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、大和リース株式会社、株式会社竹中工務店、
株式会社丹青社、東急グループ東急建設株式会社、戸田建設株式会社、株式会社乃村工藝社、
野村不動産株式会社、株式会社長谷工コーポレーション、前田建設工業株式会社

助成：公益財団法人大林財団

特別協力：内田道子、丹下都市建築設計

協力：隈研吾建築都市設計事務所、高知県立美術館 石元泰博フォトセンター、瀧本幹也写真事務所、
TOPPAN 株式会社、日本デザインセンター

後援：在フランス日本国大使館、独立行政法人日本スポーツ振興センター（予定）



「代々木競技場と国立競技場模型写真」 撮影：瀧本幹也
国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会所蔵



「丹下自邸」 撮影：石元泰博
個人蔵



「桂離宮 新御殿東面と芝庭」撮影：石元泰博
©高知県、石元泰博フォトセンター

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：小堤（おづつみ）、篠原）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

【関係者略歴】

■ 丹下健三（たんげ・けんぞう）

建築家、都市計画家。1913 年大阪府生。東京帝国大学工学部建築学科卒。東京大学建築学科助教授となり、丹下研究室で独自の都市解析を進める傍ら、数々の公共建築の設計を手がけた。この間、丹下研究室から槇文彦、磯崎新、黒川紀章、谷口吉生といった著名な建築家が輩出した。

1974 年東京大学を定年退職後、中近東、アフリカ、ヨーロッパ、シンガポールなどで広大な都市計画、超高層計画を実現し、「世界のタンゲ」と呼ばれるに至った。

代表作に広島平和記念公園、香川県庁舎、国立屋内総合競技場、東京カテドラル聖マリア大聖堂、山梨文化会館、ナイジェリア新首都計画などが挙げられる。主著に『丹下健三：一本の鉛筆から』（日本図書センター1997）など。

■ 隈研吾（くま・けんご）

1954 年生。東京大学大学院建築学専攻修了。1990 年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。

1964 年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990 年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで 40 を超す国々で建築を設計し、（日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞、他）、国内外でさまざまな賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。最新の著書として、『日本の建築』（岩波新書）。

■ 豊川斎赫（とよかわ・さいかく）

建築家・建築史家。1973 年宮城県仙台市生。

東京大学大学院工学系建築学専攻修了。現在、千葉大学大学院融合理工学府地球環境科学専攻都市環境システムコース准教授。主著に『丹下健三 戦後日本の構想者』（岩波書店 2016）、『国立代々木競技場と丹下健三』（TOTO 出版 2021）など。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：小堤（おづつみ）、篠原）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp